



「牛伝染性リンパ腫対策による生産性向上効果！」

桜の季節が過ぎ去り、新緑の季節、そして圃場作業の季節がやってきました。作業を行う際には、安全に十分に注意してください。さて、今回は「牛伝染性リンパ腫対策」についてです。これだけ聞くと、「対策が面倒だし…」と思う方もいるかもしれませんが、今回は経営に直結する「生産性」の視点からお話します。ぜひ、これを読んで、対策の第一歩を踏み出しましょう！

牛伝染性リンパ腫とは？

・ウイルスの感染により、腫瘍ができる病気

⇒ 血液を介して感染し、**治療法はない**

・感染牛（陽性牛）の多くは無症状

⇒ その**数%が発症**

⇒ 症状：リンパ節の腫れや眼球突出、食欲低下、下痢、消瘦など

⇒ 発症すると…**死亡または全廃棄**となる

【陽性牛】

無症状



30%

リンパ球増多症



数%



死亡・全廃棄

うーん…発症したら大変だけど、発症率って数%なんでしょ？ そう考えると、対策にかかるお金の方がもったいないって思っちゃうよ。



ちょっと待った！！ 実は、発症しなくても、陽性牛の方が陰性牛より

受胎率の低下や下痢、肺炎などの疾病の増加

淘汰率の上昇など
経済損失大！

が認められることが世界的に明らかになってきているのです！※

※国際獣疫事務局(WOAH) 陸生動物の診断及びワクチンに関するマニュアル CHAPTER3.4.9 ENZOOTIC BOVINE LEUKOSISより

感染するだけで生産性が低下するってほんと？



実際に、県南市場管内で牛伝染性リンパ腫対策を行っている農場の繁殖成績を見てみましょう！

牛伝染性リンパ腫清浄化農場(1戸)【親牛30頭規模】

	清浄化 前	清浄化 後	差
平均 分娩間隔(日)	407	364	43

この農場以外にも、対策を行っている農家3戸について調べてみると陽性牛の方が陰性牛より、**平均分娩間隔が約60日長い**とわかりました！



1年間の子牛生産数で考えてみると

・清浄化前:407日 ⇒ $365日 \div 407日 \times 30頭 = 27頭$
・清浄化後:364日 ⇒ $365日 \div 364日 \times 30頭 = 30頭$

＼年間 **3** 頭の差／



3頭の差を金額にすると

県南市場平均価格 519千円※×3頭 = **1,557,000円！！** ※ 和牛子牛成績より R6県南市場平均価格



牛伝染性リンパ腫対策だけの効果とは言い切れませんが、今回調べた対策農場の中では、**繁殖成績のほかにも子牛の事故の低減効果**を実感している農場もあります。
これらは世界的なデータと同様の傾向です！

対策を行い、陽性牛を減らすことで**大きな経済効果を得られる**ということですね！



今から始める牛伝染性リンパ腫対策 3ステップ

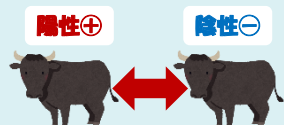
1 全頭検査

まずはどの牛が陽性牛・陰性牛なのか確認Q

⇒ 家畜保健衛生所に依頼すれば、2,400円/頭で検査可能

検査料金を助成する
国庫事業もあります。
詳しくは、
家保に相談を！

2 陽性牛・陰性牛の分離



①牛舎ごと分離

②ネットを活用する分離

⇒ 牛舎全体をネットで囲う、牛舎内の陽性牛・陰性牛をネットで仕切る
※ネットは2mm目合

ポイント

牛伝染性リンパ腫ウイルスは血液を介して感染します。
そのため、サシバエやアブなどの吸血昆虫が
陽性牛と陰性牛の間を自由に往来できないように
することが対策のポイントです！



3 昆虫成長抑制剤(IGR剤)を活用したサシバエ防除



IGR剤とは…
昆虫の変態や脱皮をコントロールするホルモンのバランスを狂わせ、脱皮や羽化を阻害することで死に至らせる薬剤のこと

防除には、薬剤活用も重要

⇒ ハエの成虫が1～2匹見えた時点で、
薬剤散布開始するのが効果的 ※その後2週間間隔で散布

<IGR剤の例>

・ネボレックス
・シロマジン
・デミリン など



重要!

牛伝染性リンパ腫対策は、すぐに効果が得られるものではなく**長期戦**です。
それでも、始めなければ、始まりません。そして、今より早いときはありません。
“今日から”“できることから”始めてみましょう！



繁殖サイクルを回してガッチリ～見えない儲けをわしづかみ！～

1 繁殖管理の意義

県飼養管理マニュアル
のダウンロード→



繁殖管理はズバリ！経営管理です。牛群の分娩間隔が短いほど、経営はプラスになります。
1年間の市場成績等から試算すると、分娩間隔の延長は**1日当たり約1,800円の損失**です。



言い換えると分娩間隔を短縮することで、子牛相場に左右されず利益を出せる！

毎日配合を1頭に
つき1袋捨てる
くらいの損失...

県では、分娩間隔の目標を380日に設定しています。

分娩間隔を412日（県平均）から380日まで32日短縮させると、母牛1頭当たり

1,800円 × 32日 = **57,600円の利益**となります。

⇒ **20頭規模なら115万円！**

分娩間隔の短縮には

①母牛の栄養管理

②分娩後の初回発情をいかに早く見つけて授精するか

が重要ですが、何よりも**「畜主が1年1産を達成しようとしているか」**が大事になります。
今年度は、このスペースで分娩間隔短縮のための母牛の管理をお伝えします。



子牛約2頭分の販売額！



子牛販売額のように目に見えない
けど、これは見逃せない！